

第2次知立市食育推進計画
最終評価報告書

2024 年（令和6年）2月

目次

第1章 計画の最終評価について.....	1
1. 最終評価.....	1
2. 最終評価の目的.....	1
3. 最終評価の実施方法.....	1
4. 評価の基準.....	1
第2章 最終評価の統括.....	1
第3章 分野ごとの目標達成状況と今後の方向性.....	3
1. 食育で心を育もう.....	3
2. 食育でからだを育もう.....	8
3. 食を取り巻く環境を整えよう.....	16
第4章 新計画における取り組みの方向性のまとめ.....	18

第1章 計画の最終評価について

1. 最終評価

本市では、2015（平成27）年3月に、市民一人ひとりが、健康で人間性豊かに生活するために、「食」に関する知識を習得し、健全な食生活を実践することを目的とし、2015（平成27）年度から2024（令和6）年度までの10年間を計画期間とする「第2次知立市食育推進計画」を策定しました。この度、計画の最終年度を迎えるにあたり、これまでの取り組み等について最終評価を行いました。

2. 最終評価の目的

計画策定時に設定した目標項目について、その達成状況を統計データやアンケート調査により得られた結果をもとに分析を行い、各分野における取り組みの更なる充実を図ります。

3. 最終評価の実施方法

本評価は、以下の作業により実施しました。

- ① 統計データ等による本市の健康に関する調査
- ② 計画における取り組みの検証
- ③ 健康づくりに関するアンケート調査（18歳以上）、健康・食育についてのアンケート調査（小学5年生・中学2年生）、子どもの生活状況についてのアンケート調査（知立市内保育園在籍の3歳児～5歳児の保護者）

4. 評価の基準

評価指標については、計画で示した目標項目について、基準値（2013年（平成25年））と比較し以下の基準により判定を行いました。

■達成率の算出方法

$$(\text{現状値} - \text{基準値}) \div (\text{目標値} - \text{基準値}) \times 100 = \text{達成率}$$

■目標達成度の判断基準

判定区分	判定基準
A：達成（目標値に到達した）	目標達成、または達成率90%以上
B：改善（目標値に到達していないが改善した）	達成率10%以上90%未満
C：変化なし（変化がない）	達成率-10%以上10%未満
D：悪化（悪化している）	達成率-10%未満
-：判定不能（判定ができない）	判定不能

第2章 最終評価の統括

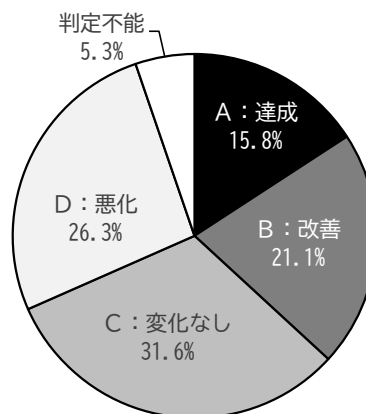
第2次知立市食育推進計画に掲げた19指標については、「A：達成」が3項目、「B：改善」が4項目、「C：変化なし」が6項目、「D：悪化」が5項目、「-：判定不能」が1項目となっており、「A：達成」もしくは「B：改善」は全体の36.9%となっています。

■分野別の指標達成状況一覧

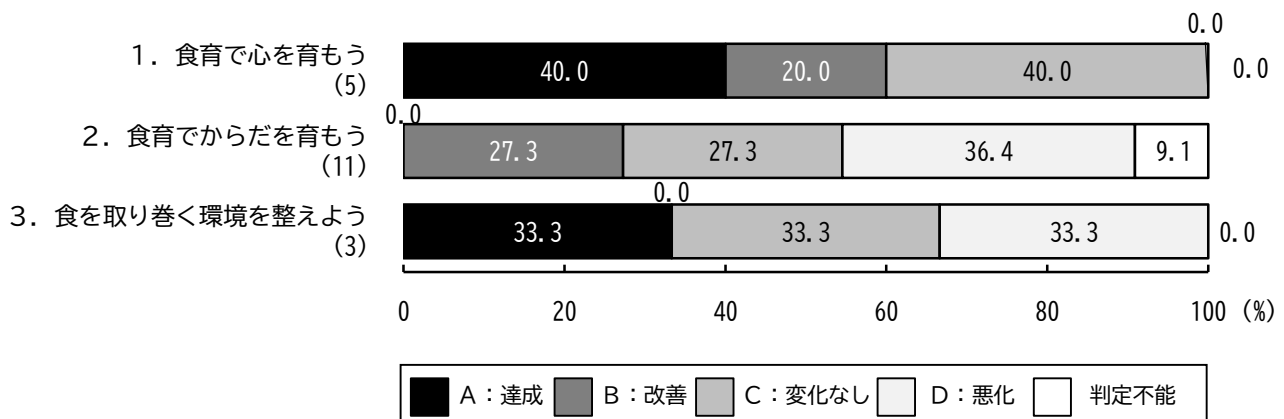
評価の上段：該当数、評価の下段：各項目に占める割合

基本方針・分野	評価 指標 項目数	評価				
		A 達成	B 改善	C 変化 なし	D 悪化	- 判定 不能
1. 食育で心を育もう	5	2 40.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%
2. 食育でからだを育もう	11	0 0.0%	3 27.3%	3 27.3%	4 36.4%	1 9.1%
3. 食を取り巻く環境を整えよう	3	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%
合計	19	3 15.8%	4 21.1%	6 31.6%	5 26.3%	1 5.3%

■全体の目標達成状況



■各分野における目標達成状況



第3章 分野ごとの目標達成状況と今後の方向性

1. 食育で心を育もう

①評価指標の目標達成状況

評価指標	対象者	実績			目標値 (R6)	評価
		策定時値 (H25)	中間評価 (R1)	現状値 (R5)		
食育に関心を持っている人の割合※1	20～74 歳	75.2%	69.7%	74.1%	90.0%	C
食育を実践している人の割合※2	20～74 歳	50.2%	47.5%	57.2%	90.0%	B
家での食事を楽しいと感じる人の割合※3	小学校（5 年生）	89.3%	87.4%	90.9%	90.0%	A
	中学校（2 年生）	76.6%	84.4%	83.1%	80.0%	A
市民農園の整備区画数	-	101 区画	101 区画	101 区画	110 区画	C

※1 健康づくりに関するアンケート調査で、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した市民の割合

※2 健康づくりに関するアンケート調査で、「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した市民の割合

※3 健康・食育についてのアンケート調査（小中学生）で、「とても楽しい」「楽しい」と回答した小中学生の割合

- 達成が2つ、改善が1つ、変化なしが2つで、半数以上が達成もしくは改善となっています。
- 「食育に関心を持っている人の割合」は中間評価では減少していましたが、その後増加し、最終評価では変化なしの評価となっています。
- 「食育を実践している人の割合」は中間評価では減少していましたが、その後増加し、最終評価では改善の評価となっています。
- 「家での食事を楽しいと感じる人の割合」については、小学5年生、中学2年生ともに目標値に達しています。
- 「市民農園の整備区画数」については中間評価、最終評価とも変化がありません。

②これまでの取り組み

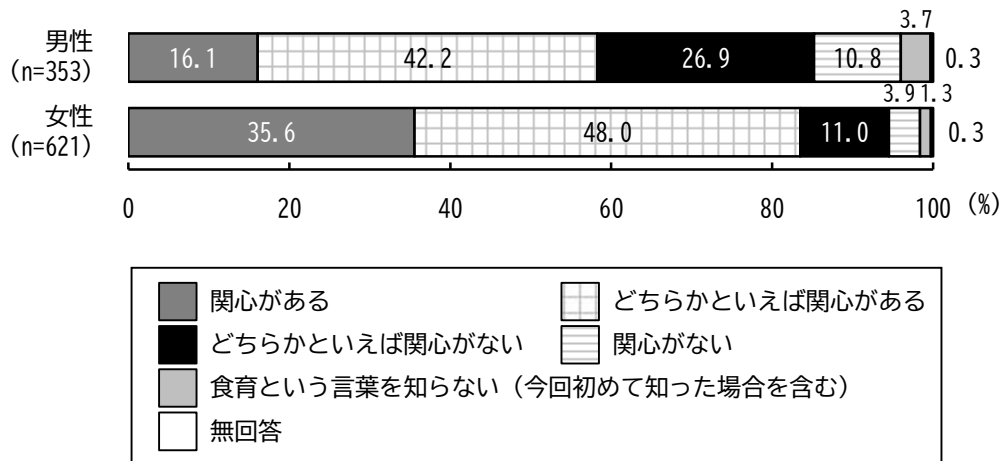
- 1 家族や仲間と食を楽しもう
- 2 食べ物を大切にし、食への感謝の気持ちを育もう
- 3 体験や交流を通して「食」への関心を高めよう
 - ・食育だより、園だより等による啓発（子ども課・教育庶務課・学校教育課）
 - ・広報、ホームページによる啓発（健康増進課・経済課）
 - ・健康すごろくの作成・普及（健康増進課）
 - ・食育知立^{ともだち}の会による市内保育園巡回や幼児健診時の紙芝居実施（健康増進課）
 - ・高齢者サロンでの交流会の実施（長寿介護課）
 - ・男性の料理教室の実施（生涯学習スポーツ課）
 - ・給食での行事食・伝統食の実施（子ども課・教育庶務課・学校教育課＝）
 - ・国際交流協会主催のイベントで他国のおやつの配布及び交流会の実施（協働推進課）
 - ・食育絵本リストの作成・普及（文化課）
 - ・野菜栽培についてのマニュアル「野菜栽培一覧」の作成・活用（子ども課）

③アンケート結果の分析

■食育に対する関心度（成人）

食育に関心がある人の割合は男性の方が低い傾向にあります。

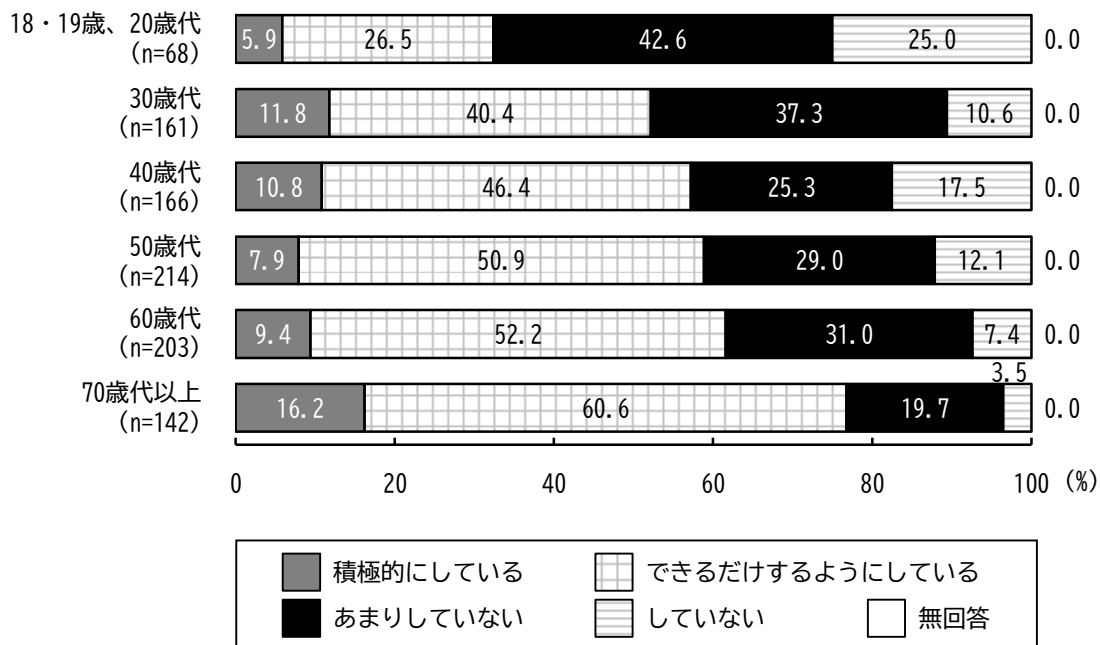
※食育に関心がある人 = 「関心がある」 + 「どちらかといえば関心がある」



■食育の実践度（成人）

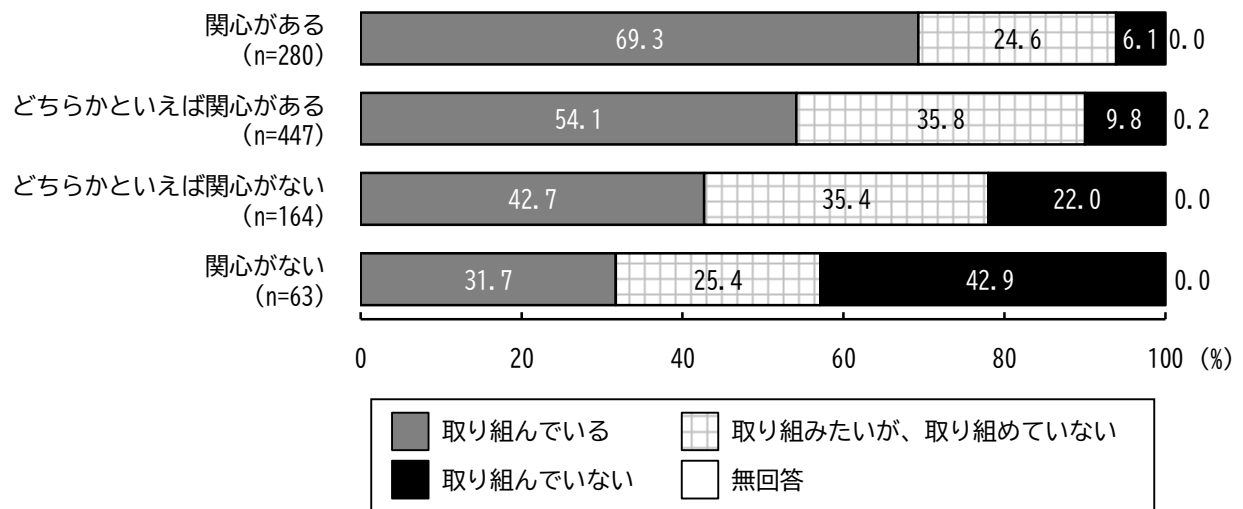
食育を実践している人の割合は若い世代で低い傾向にあります。

※食育を実践している人 = 「積極的にしている」 + 「できるだけするようにしている」



■食育の関心度と生活習慣の関係性（成人）

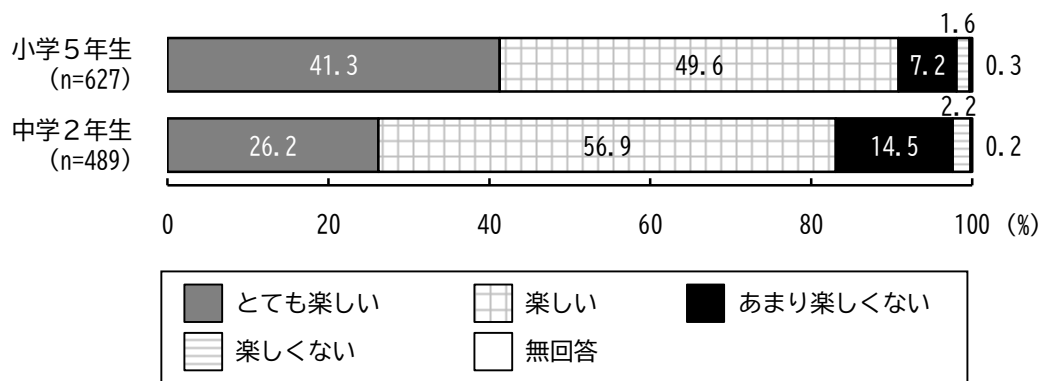
食育に関心がある人ほど、生活習慣の改善に取り組む人が多くなっています。



■家での食事の状況（小中学生）

家での食事が楽しいと感じている人の割合は、中学生になると低くなる傾向にあります。

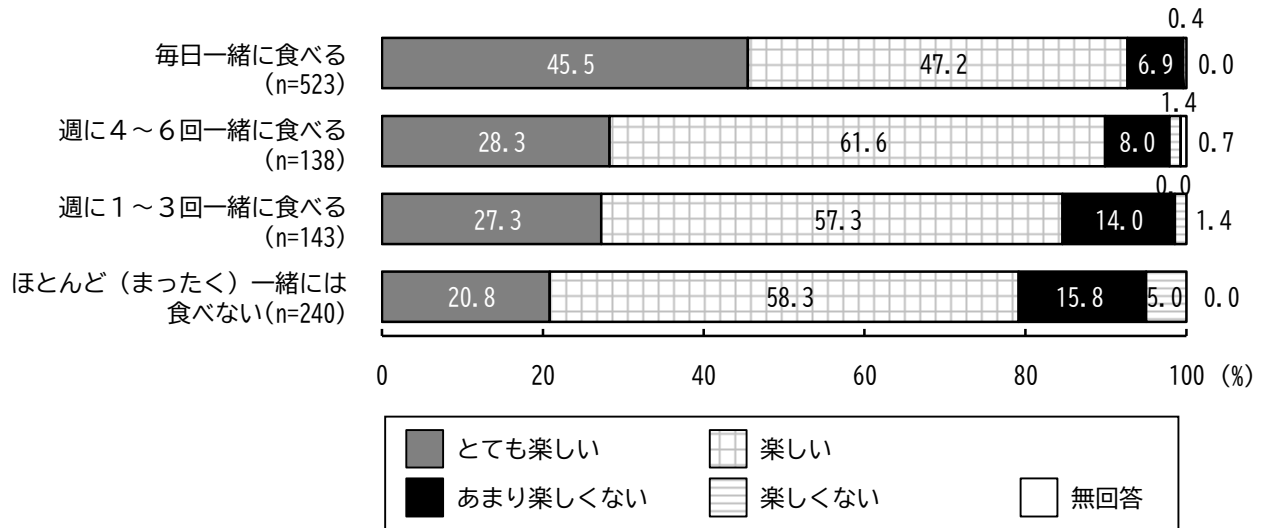
※家での食事が楽しいと感じている人 = 「とても楽しい」 + 「楽しい」



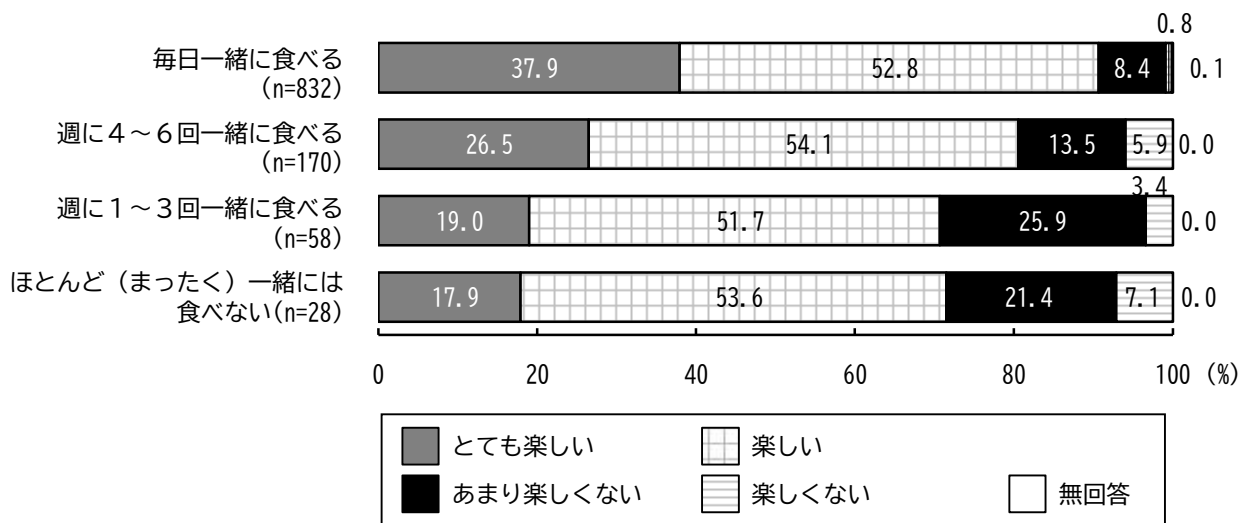
■共食の状況と家での食事の状況の関連性（小中学生）

共食の頻度が高いほど、家での食事が楽しいと感じている人の割合が高くなっています。

【朝食】



【夕食】



④課題と今後の取り組みの方向性

- 引き続き保育園や学校を通して食育だより・園だよりをはじめ様々な機会や方法で情報提供し、子どもの頃から食に関する正しい理解や望ましい習慣を身につけることを促進するとともに、子どもを通じて家庭にも周知・実践につなげていくきっかけづくりを行っていきます。また、ライフステージや、生活場面に応じてあらゆる世代へ食の知識や食の大切さや食育の実践につながる情報提供を行っていきます。
- 若い世代の食育の関心や食育を実践している人を増やすため、各機関等と連携して効果的なアプローチを検討していきます。
- 家での食事が楽しいと感じている小中学生の割合は目標値に達していますが、中学生になると低くなる傾向にあります。家族や仲間と食を楽しむことの重要性を周知し、共食の推進を図っていきます。

2. 食育でからだを育もう

①評価指標の目標達成状況

評価指標	対象者	実績			目標値 (R6)	評価
		策定時値 (H25)	中間評価 (R1)	現状値 (R5)		
朝食を欠食する人の割合	園児	3.9%	5.8%	6.3%	0.0%	D
	小学校（5年生）	3.9%	6.8%	5.9%	0.0%	D
	中学校（2年生）	7.0%	7.8%	10.0%	3.0%	D
	20歳代	23.0%	18.2%	29.2%	15.0%	D
朝食に野菜を食べている人の割合※	園児	28.7%	24.6%	21.6% (参考値)	80.0%	－
	小学校（5年生）	36.1%	38.3%	33.8%	80.0%	C
	中学校（2年生）	30.1%	38.8%	31.1%	80.0%	C
	20～74歳	34.7%	31.8%	33.5%	80.0%	C
よく噛んで食べる人の割合	小学校（5年生）	52.9%	58.3%	67.0%	70.0%	B
	中学校（2年生）	33.6%	55.5%	57.3%	70.0%	B
	20～74歳	35.3%	33.2%	47.1%	70.0%	B

※園児については、朝食を「毎日食べる」もしくは「ときどき食べる」の人のうち、朝食に野菜を「毎日食べる」の割合＋「週4～6食べる」の割合（子どもの生活状況についてのアンケート調査）。小学校5年生、中学校2年生、20～74歳については、朝食を「毎日食べる」もしくは「週に4～6日食べる」、「週に1～3日食べる」と回答した人のうち、朝食に野菜を「毎日食べる」の割合＋「週4～6食べる」の割合（小中学生：健康・食育についてのアンケート調査、20～74歳：健康づくりに関するアンケート調査）。

- 目標値に達している指標はなく、改善が3つ、変化なしが3つ、悪化が4つ、判定不能が1つとなっています。
- 「朝食を欠食する人の割合」については、園児、小学校5年生、中学校2年生、20歳代のすべてにおいて、悪化の評価となっています。20歳代以外では中間評価でも増加しており、悪化傾向が続いています。
- 「朝食に野菜を食べている人の割合」について、小学校5年生、中学校2年生、20～74歳については増減していますが、最終評価では変化なしの評価となっています。
- 「よく噛んで食べる人の割合」は小学校5年生、中学校2年生、20～74歳とも改善の評価となっています。小学校5年生、中学校2年生については中間評価でも増加し、改善傾向が続いています。

②これまでの取り組み

- 1 正しい食習慣を身につけよう
- 2 食事から健康づくりに取り組もう
 - ・KIDS マイレージ事業の実施（健康増進課）
 - ・幼児健診時に朝食啓発チラシの配布（健康増進課）
 - ・学校給食レシピ集の作成・普及（健康増進課・学校教育課・教育庶務課）
 - ・栄養に関する講座の実施（長寿介護課・健康増進課・生涯学習スポーツ課）

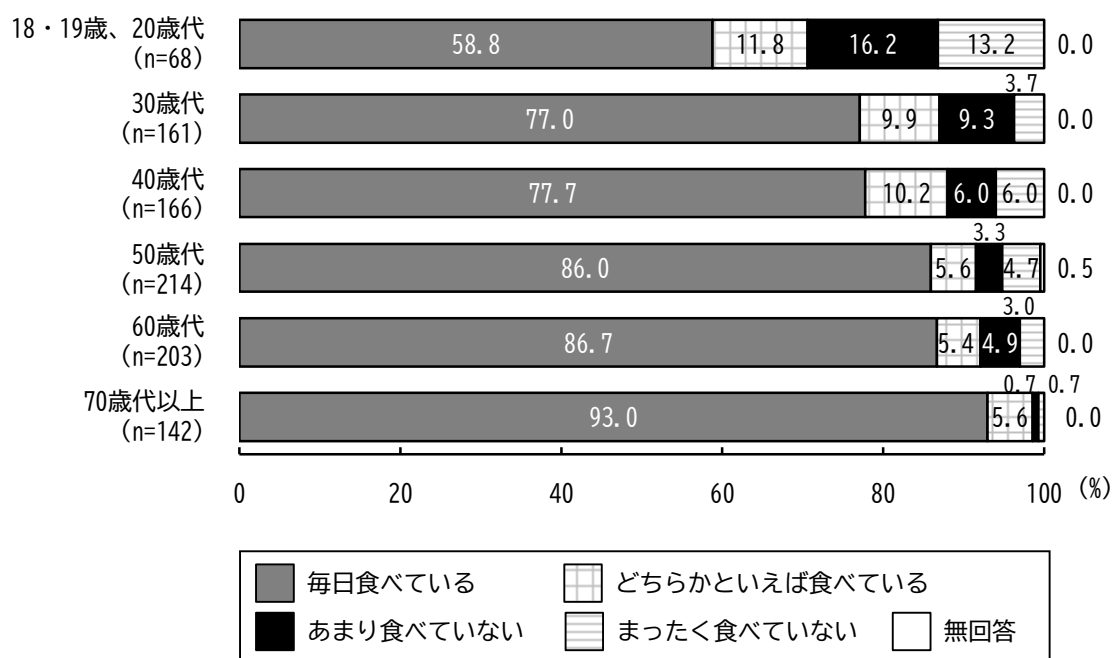
- ・ 健診結果での肥満児への個別健康相談等の実施（子ども課・学校教育課）
- ・ 高齢者への健康教育や、低栄養リスクが高い高齢者への個別指導（健康増進課）
- ・ 歯科健康教育の実施（子ども課・健康増進課）
- ・ 幼児健診時歯科衛生士個別相談の実施（健康増進課）

③アンケート結果の分析

■朝食の摂取状況（成人）

朝食を食べない人の割合は、18・19歳、20歳代での割合が最も高くなっていますが、特に18・19歳、20歳代での割合が高く、約3割となっています。

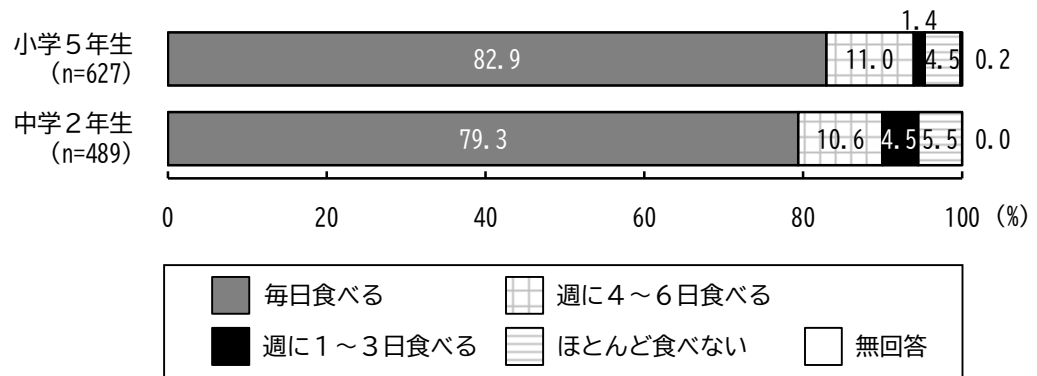
※ 食べない = 「まったく食べていない」 + 「あまり食べていない」



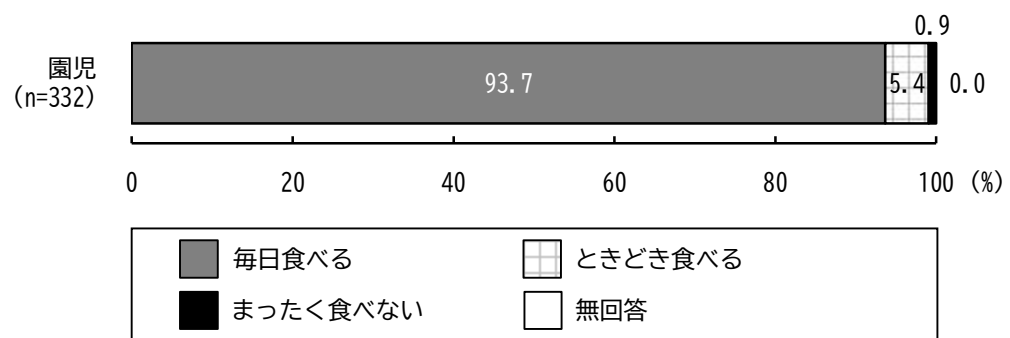
■朝食の摂取状況

朝食を毎日食べている児童・生徒及び園児の割合は高い値となっていますが、年代が上がるにつれて割合は低くなる傾向にあります。

【小中学生】

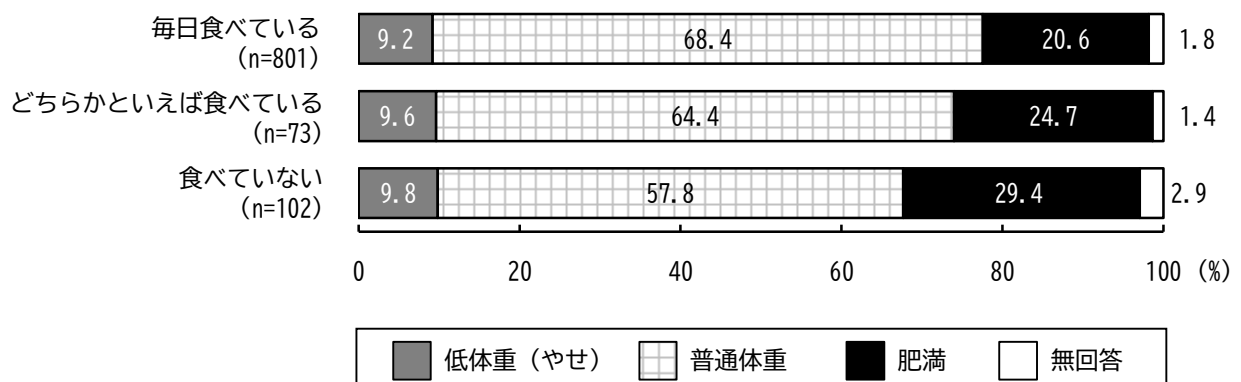


【園児】



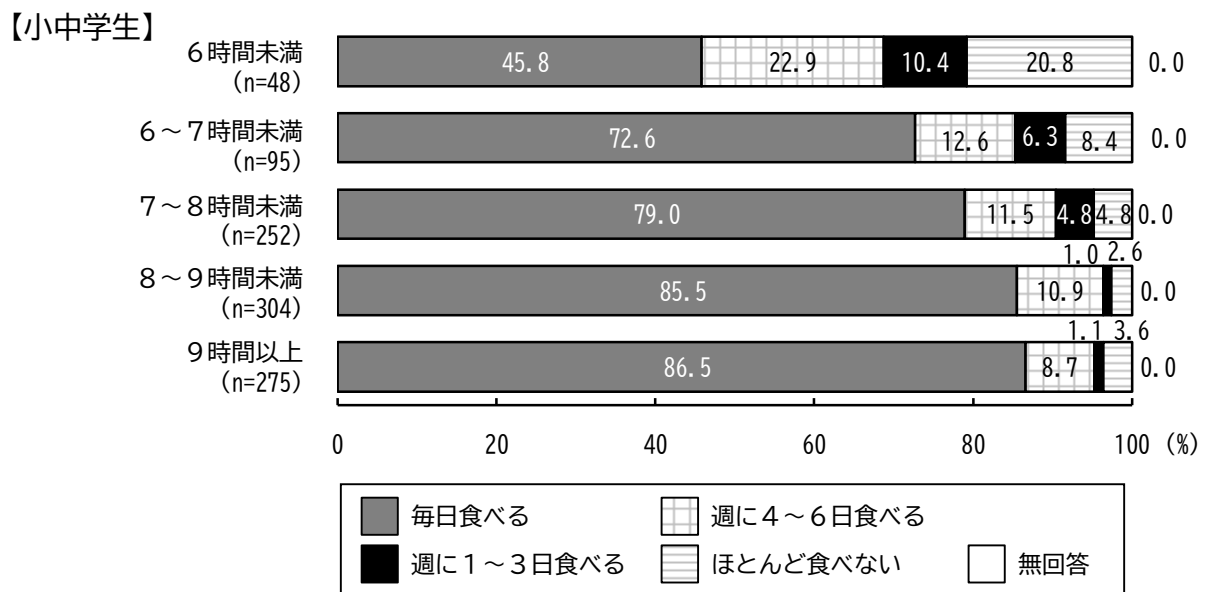
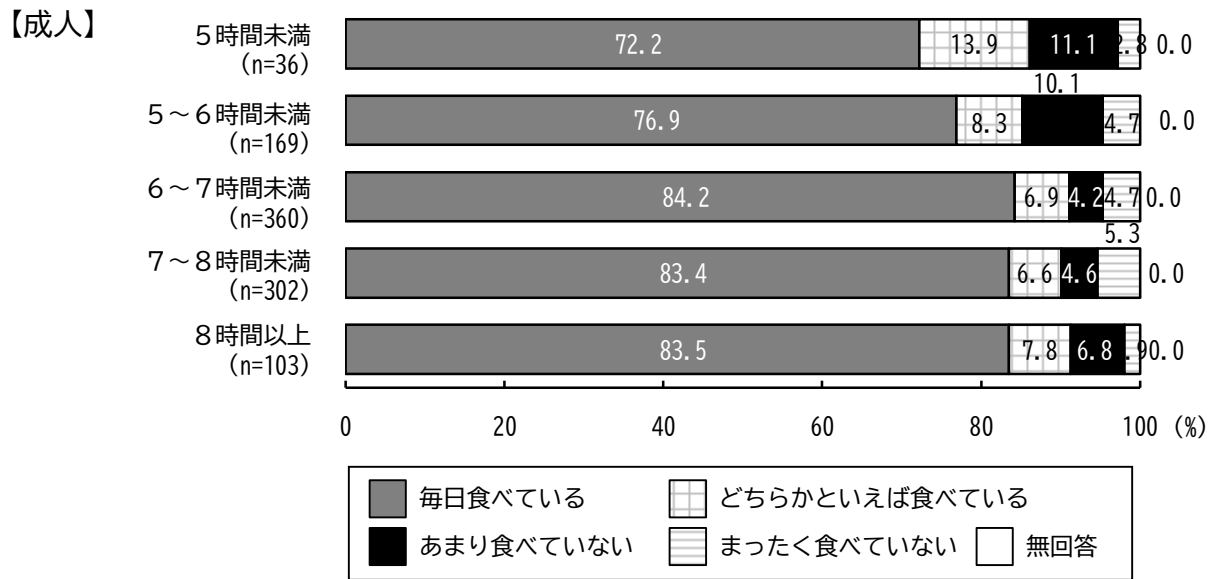
■朝食とBMIの関連性（成人）

朝食を食べている人ほど「肥満」の割合が低くなっています。



■睡眠時間別にみた朝食の摂取状況

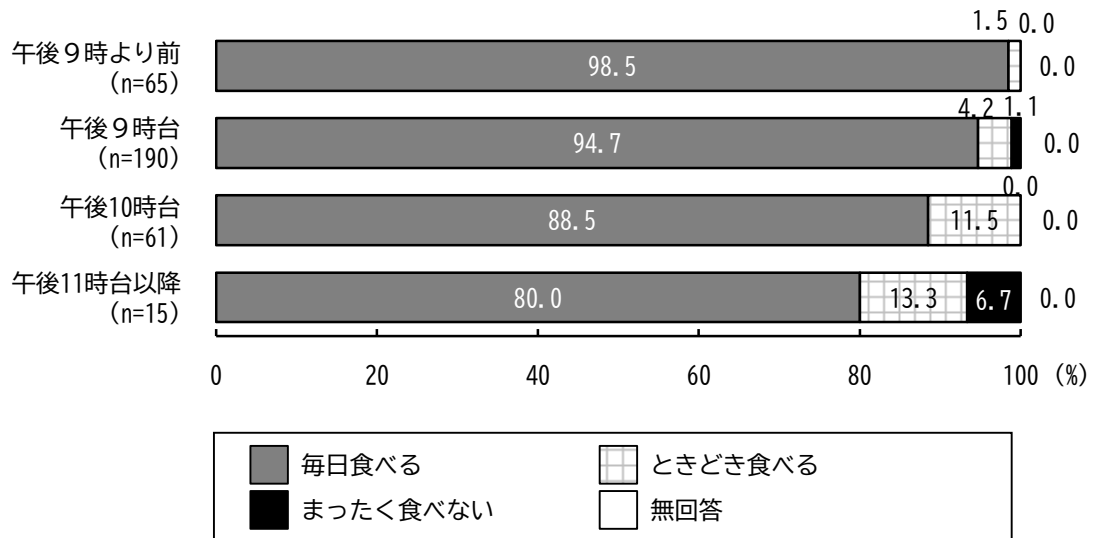
朝食を毎日食べる人の割合は、成人、小中学生とも、睡眠時間が少ないほど低くなっています。



■就寝時間別にみた朝食の摂取状況

就寝時間が遅いほど朝食を毎日食べる園児の割合は低くなっています。

【園児】

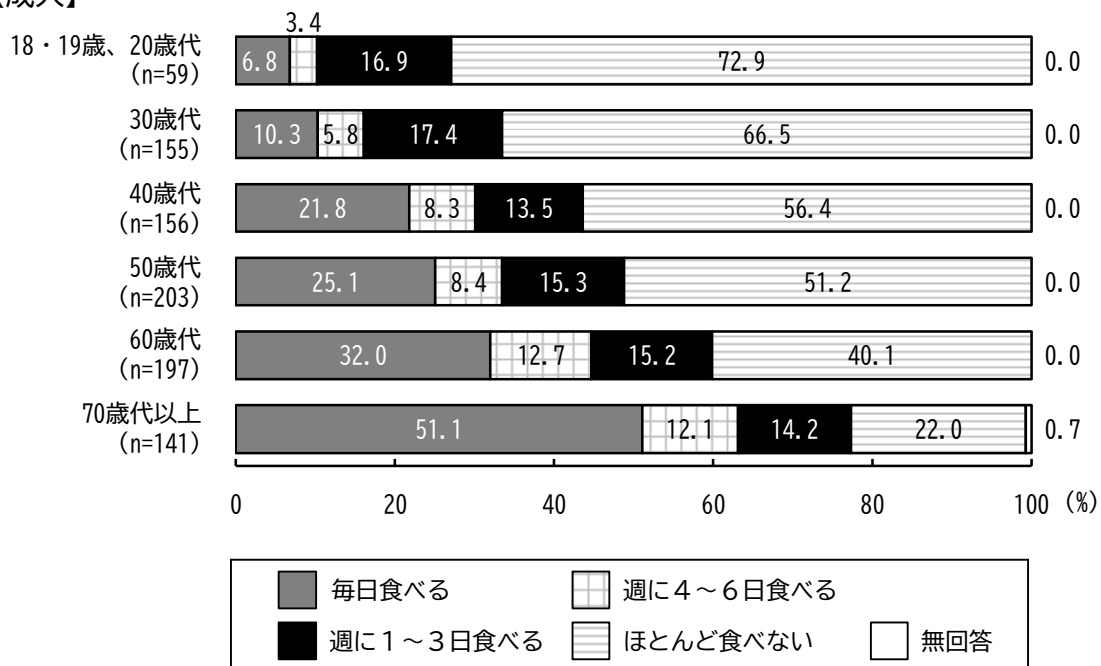


■朝食での野菜の摂取状況

成人の結果をみると、朝食を食べる人のうち、朝食で野菜を食べる人の割合は、男女ともに年代が上がるほど高くなっています。割合が低い18・19歳、20歳代については約1割となっています。

※ 食べる = 「毎日食べる」 + 「週に4～6日食べる」

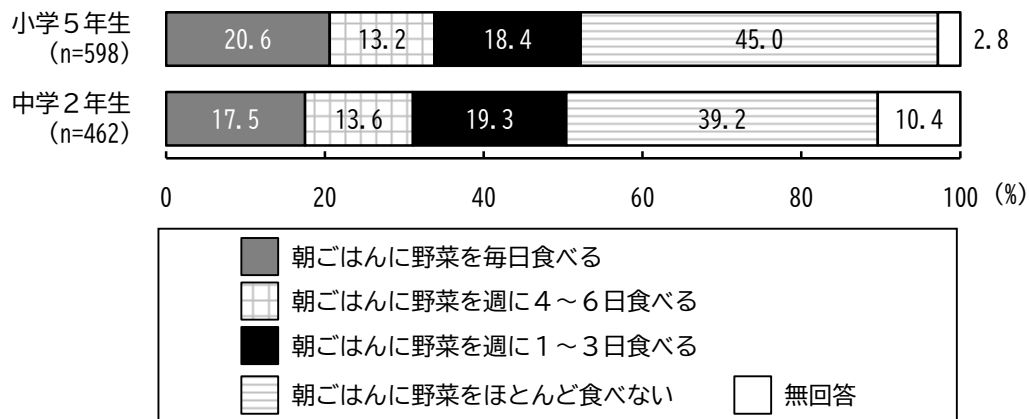
【成人】



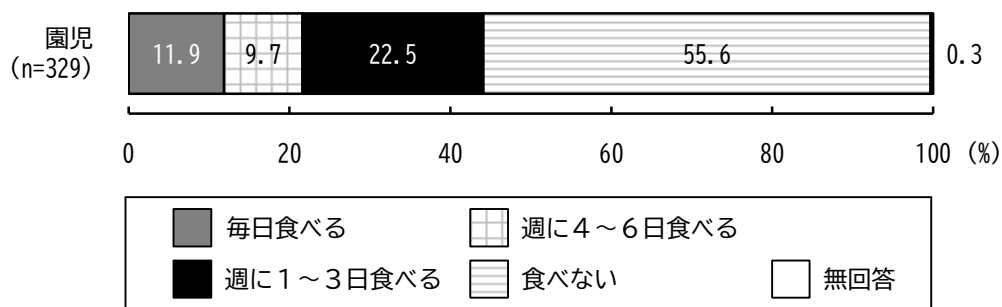
朝食で野菜を食べる小中学生の割合は、小学5年生、中学2年生では4割台となっています。園児については約2割で、小中学生よりも低い割合となっています。

※食べる＝「毎日食べる」＋「週に4～6日食べる」

【小中学生】

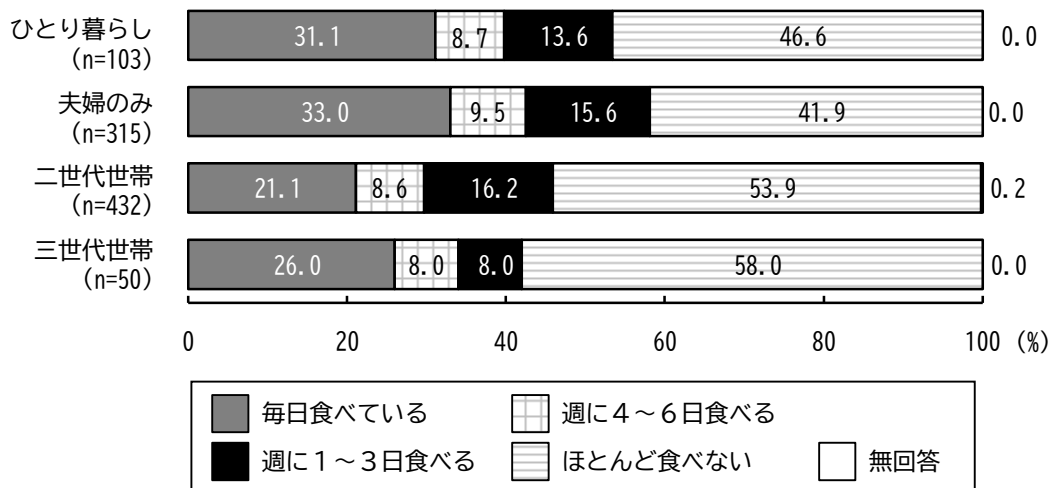


【園児】



■世帯構成別でみた朝食での野菜摂取状況（成人）

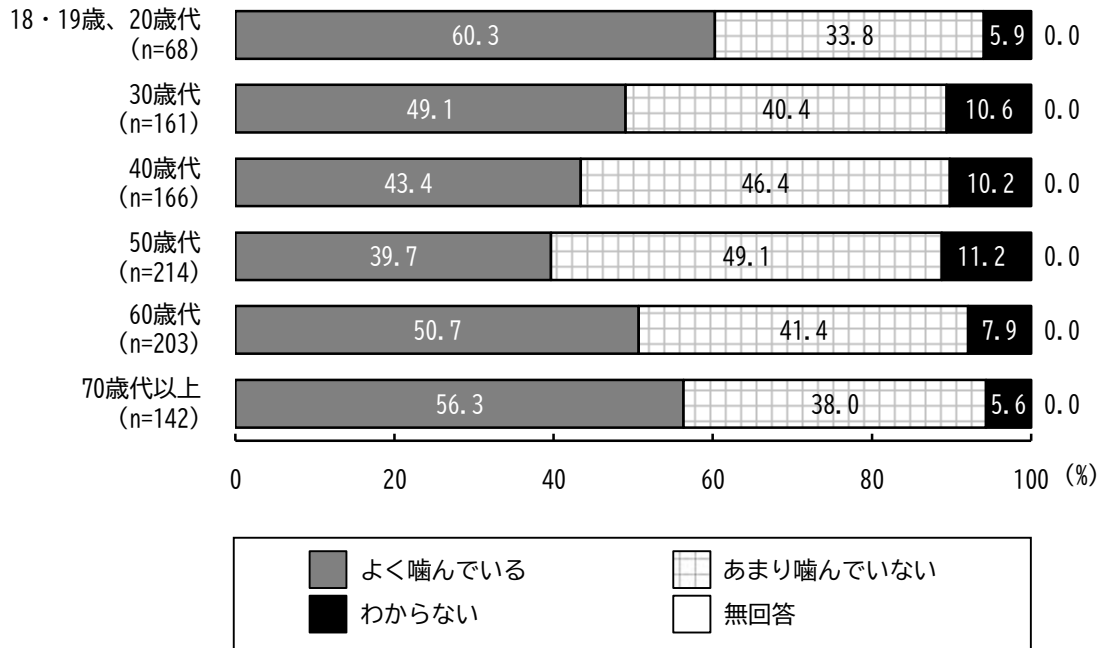
朝食を食べる人のうち、朝食で野菜を食べる人の割合は、二世帯世帯、三世帯世帯で低くなっています。



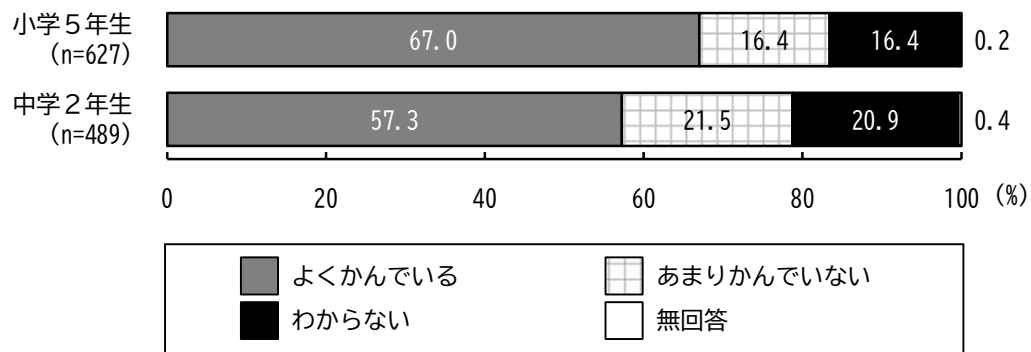
■咀嚼の状況

成人の結果をみると、よく噛んで食べる人の割合は、40歳代、50歳代で低い傾向にあります。
よくかんでいる人の割合を小中学生と比較すると、中学2年生の割合が低く、その差も大きくなっています。

【成人】



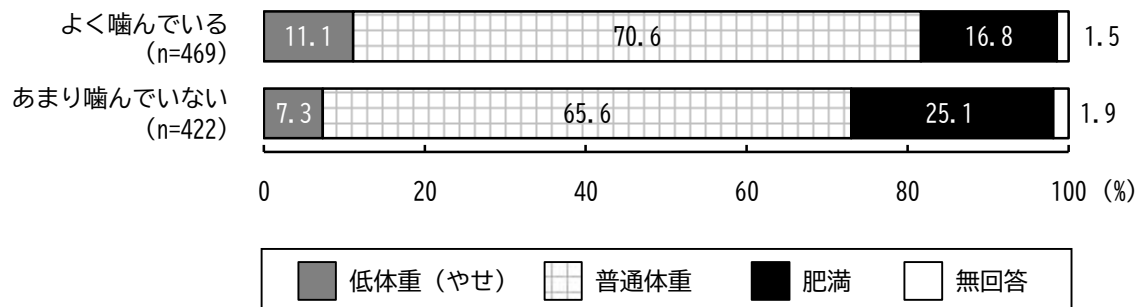
【小中学生】



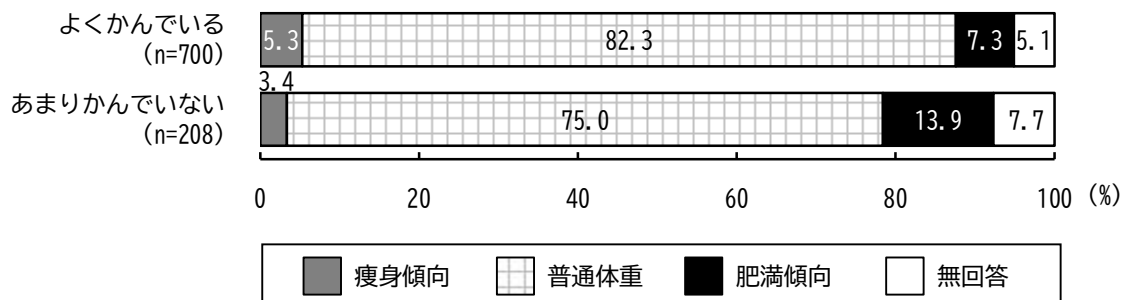
■咀嚼とBMI・肥満度の関連性

よく噛んでいる人は噛んでいない人に比べて「肥満」の割合が低い傾向にあります。小中学生も同様の傾向にあります。

【成人】



【小中学生】



④課題と今後の取り組みの方向性

- 生活習慣病の予防や健康寿命の延伸のために、幼児期から望ましい食習慣を身につけることが重要となります。朝食や野菜摂取、栄養バランスの整った食事など、一人ひとりの意識が高まるよう、効果的なアプローチ方法を検討していきます。
- 睡眠時間が少ない人や就寝時間の遅い人に朝食の欠食がみられるため、早寝・早起き・朝ごはんの習慣づけに向けての取組を進めていきます。
- 朝食の野菜摂取については、特に二世帯世帯、三世帯世帯での割合が低く、世帯人員が多いと朝食の準備等に手がかり野菜が摂取できていないと考えられることから、手軽にできる野菜の摂取方法等について啓発を行っていきます。
- 咀嚼の状況については、あまり噛んでいない人の方が肥満の割合が高い傾向にあります。各機関と連携し、咀嚼の大切さについて周知を行っていきます。

3. 食を取り巻く環境を整えよう

①評価指標の目標達成状況

評価指標	対象者	実績			目標値 (R6)	評価
		策定時値 (H25)	中間評価 (R1)	現状値 (R5)		
食生活改善推進員の人数（現：食育知立（ともだち）の会会員）	-	35 人	28 人	23 人	40 人	D
学校給食における愛知県内産の食材使用率	-	39.5%	55.1%	48.1%	45.0%	A
愛知県産のものを意識して購入する人の割合	20～74 歳	32.8%	28.2%	33.5%	55.0%	C

○達成が1つ、変化なしが1つ、悪化が1つとなっています。

○「食育知立^{ともだち}の会会員数」は中間評価、最終評価ともに減少し、悪化傾向が続いています。

○「学校給食における愛知県内産の食材使用率」は目標値に達しています。

○「愛知県産のものを意識して購入する人の割合」は中間評価では減少していましたが、その後増加し、最終評価では変化なしの評価となっています。

②これまでの取り組み

1 食育を進める体制を整えよう

2 安心安全に食べよう

3 環境に優しい食育を進めよう

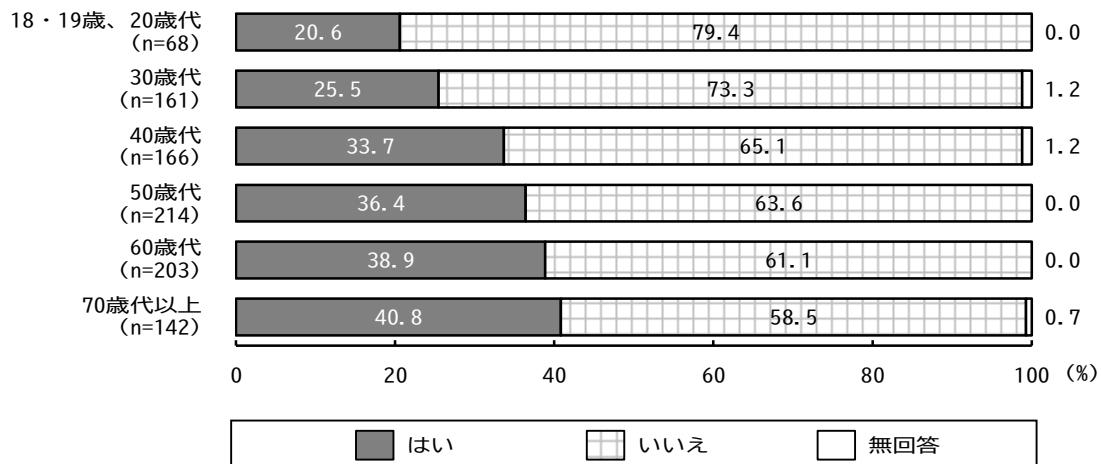
- ・食育知立^{ともだち}の会による「食まる体操」動画の作成及びホームページでの PR（健康増進課）
- ・地場産物を使用した給食の提供（教育庶務課・学校教育課・子ども課）
- ・ごみの減量・分別化を目的とした講座の開催や「ごみ出しガイドブック」の作成、アプリの充実、フードドライブ事業の実施（環境課）
- ・生ごみ処理機器の購入費助成、貸し出し事業によるごみの堆肥化（環境課）
- ・残菜処理設備利用によるゴミの減量（教育庶務課）

③アンケート結果の分析

■地産地消の状況（成人）

食材を買う時、愛知県産の食材を意識して購入している人の割合は若い世代で低い傾向にあります。

※食材を買う時、愛知県産の食材を意識して購入している人 = 「はい」



④課題と今後の取り組みの方向性

- 食育知立^{ともだち}の会会員は減少傾向にあるため、活動のPRを図るなど、会員の確保に向けて支援を行っていき、活躍の場の充実にも取り組んでいきます。
- 愛知県産のものを意識して購入する人の割合は最終評価では変化なしとなっているため、引き続き様々な機会を活用して地産地消を推進していきます。
- 食品ロス削減やごみの減量等に向けて、市民の意識を向上させるための取り組みを進めていきます。

第4章 課題と今後の取り組みの方向性のまとめ

第3次知立市食育推進計画の策定にあたっては、国の第4次食育推進基本計画、県の第4次愛知県食育推進計画の方向性を踏まえつつ、第2次知立市食育推進計画の最終評価で示された課題の解決に向けて、庁内の各部署間の連携を強化するとともに、食育関連団体や事業所、学校等と連携し、地域全体の推進体制の充実を図っていきます。

1. 食育で心を育もう

- 引き続き保育園や学校を通して食育だより・園だよりをはじめ様々な機会や方法で情報提供し、子どもの頃から食に関する正しい理解や望ましい習慣を身につけることを促進するとともに、子どもを通じて家庭にも周知・実践につなげていくきっかけづくりを行っていきます。また、ライフステージや、生活場面に応じてあらゆる世代へ食の知識や食の大切さや食育の実践につながる情報提供を行っていきます。
- 若い世代の食育の関心や食育を実践している人を増やすため、各機関等と連携して効果的なアプローチを検討していきます。
- 家での食事が楽しいと感じている小中学生の割合は目標値に達していますが、中学生になると低くなる傾向にあります。家族や仲間と食を楽しむことの重要性を周知し、共食の推進を図っていきます。

2. 食育でからだを育もう

- 生活習慣病の予防や健康寿命の延伸のために、幼児期から望ましい食習慣を身につけることが重要となります。朝食や野菜摂取、栄養バランスの整った食事など、一人ひとりの意識が高まるよう、効果的なアプローチ方法を検討していきます。
- 睡眠時間が少ない人や就寝時間の遅い人に朝食の欠食がみられるため、早寝・早起き・朝ごはんの習慣づけに向けての取組を進めていきます。
- 朝食の野菜摂取については、特に二世帯世帯、三世帯世帯での割合が低く、世帯人員が多いと朝食の準備等に手がかかり野菜が摂取できていないと考えられることから、手軽にできる野菜の摂取方法等について啓発を行っていきます。
- 咀嚼の状況については、あまり噛んでいない人の方が肥満の割合が高い傾向にあります。各機関と連携し、咀嚼の大切さについて周知を行っていきます。

3. 食を取り巻く環境を整えよう

- 食育知立の会^{ともだち}の会会員は減少傾向にあるため、活動のPRを図るなど、会員の確保に向けて支援を行っていき、活躍の場の充実にも取り組んでいきます。
- 愛知県産のものを意識して購入する人の割合は最終評価では変化なしとなっているため、引き続き様々な機会を活用して地産地消を推進していきます。
- 食品ロス削減やごみの減量等に向けて、市民の意識を向上させるための取り組みを進めていきます。